

東海市立明倫小学校 令和8年度 現職教育計画

- 1 研究主題 多様な児童を包摂する学びの中での、探究と表現の支援
～アウトプットの充実とフィードバックを生かした学びの深化～

※フィードバック：アウトプット（外に出した考え）を材料にして、学びを“次に進める”ための返し。学びを前に進める「支援」

2 目指す児童像

対話とフィードバックを通して、学びを広げ深めることができる児童

3 主題設定の理由

令和6年度は、主体的な学びを引き出す「課題設定」に重点を置き、児童が自ら問いを立てる活動を促した。続く令和7年度には、教師のきっかけ作りから児童が自ら探究する活動へと結びつけ、仲間との意見交換や多様なアイデア創出を通じて学びを深める実践に取り組んだ。さらに、効果的な対話を促進するため、安心して交流できるオープンな環境作りにも注力した。これらの活動を通じ、課題解決のプロセスで得た知識やスキルを実生活に応用し、「深い学び」へと繋げることを目指した。

しかしながら、令和6年度・7年度の児童および教師へのアンケート結果からは、対話的な活動だけでなく学習全般において、自分の考えを十分に深めたり共有したりすることに課題を抱える児童の姿が見られた。自分の意見をうまく言語化して伝えきれなかったり、他者の考えを自分事として受け止め、学びに生かすところまで落とし込むことが十分にできなかったりしたことも明らかになった。

また、一部の児童においては、「基礎的・基本的な知識」や技能が十分に定着していないことが影響し、探究に必要な情報の整理や思考の深まりが進みにくい場面も見られた。その結果、他者との関わりを通じた活動において、知識を深めたり授業で得た学びを十分に活用したりするところまで到達できない状況が生じた。特に、「自ら課題を設定して探究する」活動においては、必要な知識・視点の不足が重なり、主体的・発展的な学びにはつながらなかった。

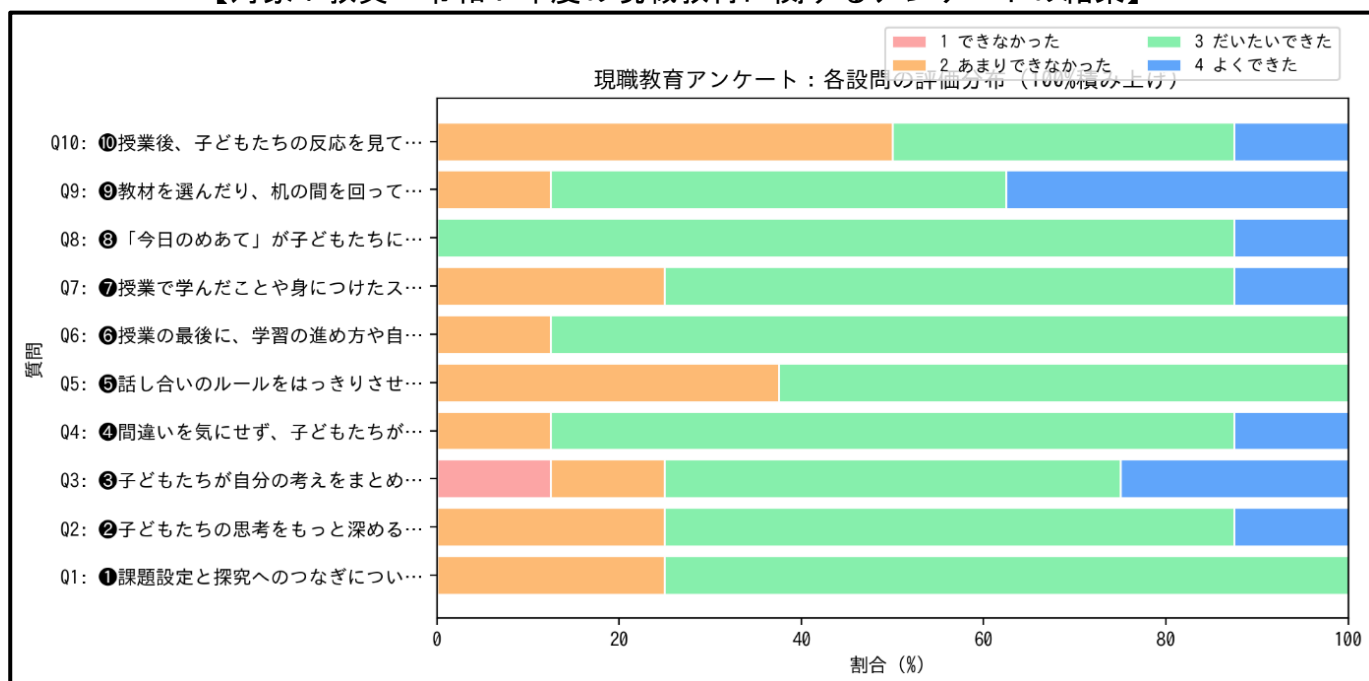
これらの2年間の実践と課題を踏まえ、令和8年度は、これまでの研究の集大成として「**多様な児童を包摂する学びの中での、探究と表現の支援～アウトプットの充実とフィードバックを生かした学びの深化～**」を研究主題に掲げる。令和7年度に見られた「考えが深まらない」「意見を伝えきれない」といった課題に対し、授業の中に多様な「アウトプットの実践」を継続的に取り入れていく。児童が自分の考えを言葉にしたり、整理して表現したりする場面を意図的に増やすことで、思考を深めることをねらいとする。その際、シンキングツールを活用し、各教科の見方・考え方を踏まえながら、考えのつながりや根拠を整理できるようにする。

また、アウトプットに対する「フィードバックの活用」を大切にし、児童が自分の学びを振り返ることができるようにする。さらにルーブリックを用いて評価の観点を共有することで、児童自身が「どこまでできているか」「次に何を改善すればよいか」を考えられるようにし、メタ認知を促す。

こうした取組を、協働的な学びと個別最適な学びの両方を意識しながら進めることで、仲間との対話を通して考えを深めるとともに、一人一人に応じた学びの充実を図る。その結果、知識を覚えるだけでなく、課題解決の過程で得た学びを確実に身に付け、実生活につながる「深い学び」の実現を目指す。

これまでの実践を生かしながら、児童一人一人が主体的に学び、自分の考えに自信をもって表現できる姿の実現を目標とする。

【対象：教員 令和7年度の現職教育に関するアンケートの結果】



(1) 強み（相対的に高いところ）

- Q4 : 安心して意見を言える雰囲気づくり … 平均 3.00
→心理的安全性をつくることは一定の成果。
- Q8 : 「今日のめあて」が子どもに伝わる … 平均 3.12
→めあての可視化・共有はおおむね良。
- Q9 : 教材選択・机間指導での個別支援…平均 3.25（相対的に最も高い）
→子どもの実態に応じた個別の声かけ・支援は比較的うまく機能。

(2) 伸ばしたい（相対的に低いところ）

- Q1 : 課題設定から探究へのつなぎ … 平均 2.75
→子どもが「なぜ？」と考え始める課題の立て方・つなぎ方の設計が必要。
- Q5 : 話し合いのルールの明確化と、目的を意識した意見交流 … 平均 2.62
→協働的な学びの質（役割分担・話し合いの質・相互評価）が課題。
- Q10 : 授業後の振り返り→記録→次時への活用 … 平均 2.62
→メタ認知の定着（短時間で行う振り返り→次の行動目標化）に改善を期待。

(3) アンケートの結果を踏まえた改善策

R7年度アンケートの結果からは、「話し合いの質の向上」「振り返りの充実」「課題から探究へのつながり」に課題が見られた。そこで、役割を明確にした話し合いの工夫、短時間で継続可能な振り返りの定型化、ズレや対立を生かした課題設定を改善策として位置付けた。これらの取組を通して、協働的な学びを基盤に、メタ認知を促し、多様な児童一人一人が学びに参加できる授業づくりを進めていきたい。

さらに教科の例として「算数」を挙げると、児童が学んだ内容を身の回りの出来事と結び付けながら、「この考え方は何に生かせるだろうか」と考え、学びを活用しようとする視点をもつことを重視する。その中で生まれた疑問や課題に目を向け、必要な情報を集めたり、考えを整理したりしながら、学びを深めていく探究の姿を育てていく。そして、気づいたことや分かったことを生活の場面に生かすとともに、次の学習やより発展した学びへとつなげていくことを目指す。

①ねらい

観 点	内 容
基本方針	協働的な学び × メタ認知 × 多様性の包摂
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを繰り返し行い、考えを深める児童 ・自分の学びの状況に気づき、次の行動を考えられる児童 ・立場や背景に関わらず、誰もが参加できる学びの場

②具体的な改善策

改善の視点	課題（アンケートから）	改善策	期待される効果
ア：話し合いの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで何を話せばよいか分からない児童がいる ・一部の児童の発言に偏りがち 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割カードの活用（問い手、要約係、根拠確認係など） 例) 問い手「そう考えた理由はなぜか」 要約係「話をまとめると～ですね」 ・個別→ペア→全体の段階的な話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言することへのハードルが下がる ・根拠を意識した対話が生まれる ・全員参加の話し合いが実現
イ：振り返りと次の行動の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りが形式的になりやすい ・次の学習につながりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間・定型の振り返りを毎時実施 ① 1分:自己評価（3観点・3段階） ② 1分:友達からのコメント ③ 1分:次がんばることを記入 ※学級共通の簡易ルブリックを固定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを客観的に捉えられる ・「次に何をすればよいか」が明確になる ・メタ認知が継続的に深まる
ウ：課題から探究へのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が与えられたものになりがち ・調べ学習が表面的になりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入でズレや対立を意図的に設定…写真、統計資料等から「なぜ？」を引き出す ・問いを立てる型の共有 ① 自分の問い→ ②グループの問い ・「どうやって確かめるか（計画）」と「振り返り」をセットで実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に問いをもつ児童が増える ・探究の過程を意識した学習になる ・思考の深まりが可視化される

【構想図】協働的な学び × メタ認知 × 多様性の包摂



4 実践のプロセス

探究的な学びの4つのプロセス

- ・ 問いの生成・焦点化

資料やズレから「なぜ？」を引き出し、個人の問いをグループの問いへと整理する。

- ・ 思考整理・協働的探究

個別→ペア→グループ→全体の対話を通して、根拠をもとに考えを深める。

- ・ 多様なアウトプット

文章・図・ICT等で考えを表現し、共有によって思考を再構成する。

- ・ フィードバック・メタ認知

自己評価と相互コメントにより学びを振り返り、次の行動につなげる。

上記の取組を通して、児童は自らの興味や疑問に基づき、主体的に探究を進めるとともに、思考の過程や得られた学びを、多様な表現方法を用いて伝える力を育てていく。

さらに、仲間や教師からの建設的で具体的なフィードバックを積極的に生かすことで、自身の学びを多角的に捉え直し、メタ認知を働かせながら、次の探究や継続的な学習へとつなげていく力を身に付けていく。

こうした実践と振り返りを粘り強く積み重ねる中で、児童は困難な課題に対しても自ら考え、工夫しながら解決に向かおうとする姿勢を培い、自己効力感を高めていこう。

本校では、3年間の研究の成果を生かし、児童一人一人が自分の生き方を自律的に切り拓き、変化が激しく先行きの見通しが困難な VUCA (ブーカ) の時代においても、自信をもって学び続け、さまざまな場面で主体的に貢献できる力の育成に努めていきたい。

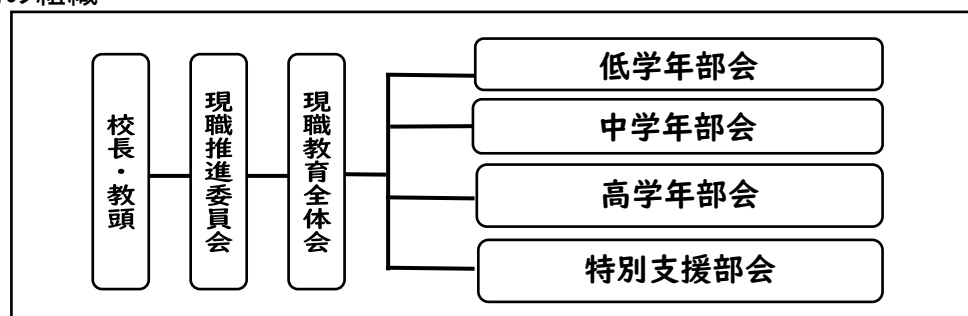
5 研究の計画

(令和6年度) 導入期：児童主体の対話的な活動の推進 —挑戦し続ける学びを通して、可能性を広げる—
(令和7年度) 成長期：考える力を引き出す「課題提示」 —深い学びにつながる効果的な学習過程を探究する—
(令和8年度) 成熟期：自らの探究を表現し、対話とフィードバックを通して学びを深化させる —自己効力感を育む研究の集大成—

6 研究の仮説

仮説①	・自ら探究した学びを多様な形で表現し、互いに共有する活動を通して、児童は思考を整理・深化させ、課題解決能力を高めることができるだろう。
仮説②	・アウトプットに対するフィードバック（自己評価・相互評価）を継続的に活用することで、児童は自らの学びを客観的に捉え、メタ認知を促進し、自己効力感を高めながら、探究をさらに深化させることができるだろう

7 研究の組織



8 研究の手立て

(1) 探究・表現・フィードバックを循環させる学習プロセスの構築

- ・探究した学びを多様な形で表現し、フィードバックを生かして学びを深化させるため、学習過程を

「問いの生成 → 思考整理 → アウトプット → フィードバック・振り返り」の循環として位置付け、計画的に指導する。

① 探究・表現・フィードバックを支えるコミュニケーション技能の育成

- ・「話す・聞く」だけでなく、「表現する（アウトプット）」「フィードバックする・受け取る」ことを、探究を深めるための技能として段階的に育成する。ICT 機器の活用を前提とし、全学年で共通の視点をもつ。

学年段階別に育てたい姿

所属	育てたい姿
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた問いや課題に沿って、自分の考えや経験を簡単な言葉や絵で表現する ・友達の話聞き、質問や感想を伝える ・発表のよい点に気づき、言葉で伝える
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の意見と比べながら、自分の考えを整理して説明する ・ポスターや簡単な資料を用いて、探究の途中経過を表現する ・共通点や違いに着目し、具体的なフィードバックを行う
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料やICTを活用し、根拠をもとに多角的に考えを表現する ・目的や聞き手を意識して、探究の成果を計画的に発表する ・建設的なフィードバックを行い、受け取った意見を学びの改善に生かす

② 探究活動を支える情報活用能力の育成

探究の質を高めるため、情報の収集・整理・活用の力を育成する。

- ・週1回の「図書館デー」を継続し、書籍・資料・新聞など多様な情報源に触れる
- ・インターネット検索やデータベースの活用方法を指導し、情報の信頼性を判断する力を養う
- ・収集した情報を、思考整理やアウトプットにつなげる指導を行う

③ ICTを活用したアウトプット・フィードバック環境の整備

学年段階に応じたICT活用を進め、

- ・「いつでも考えを表現し、互いにフィードバックできる環境」を整える。
- ・デジタルツールを用いた思考の可視化
- ・発表資料や探究レポートの作成
- ・オンライン上での意見共有・相互コメント
- ・デジタルポートフォリオによる学びの蓄積と振り返り

(2) 校内研修の充実

① 研究授業と協議会の実施

- ・低・中・高学年および特別支援部会が持ち回りで研究授業を実施し、全体で協議会を行う。
- ・特に次の視点で授業を参観・協議する。
 - ア：探究の深まりが見られたか
 - イ：アウトプットの工夫が学びにつながっていたか
 - ウ：フィードバックが次の学びに生かされていたか

② 思考・対話・学びの「見える化」

- ・シンキングツールや記録方法を工夫し、児童の思考や対話、学びの変容が共有できるようにする。

③ 継続的な授業改善

- ・ 前回の研究授業での成果と課題を次の実践に生かし、学期をまたいで改善を積み重ねる。

④ 研究成果の共有・発信

- ・ 研究授業・協議会の内容を校内で共有し、日常の授業改善につなげる。

(3) 外部講師による研修の実施

- ・ 研究主題 多様な児童を包摂する学びの中での、探究と表現の支援
～アウトプットの充実とフィードバックを生かした学びの深化～

に関連する外部講師を招聘し、

- ① 探究のプロセス指導
- ② 多様なアウトプットの手法
- ③ 効果的なフィードバックの在り方 について学ぶ機会を設ける。

(4) 学習環境の整備

- ・ 児童が安心して探究し、表現し、フィードバックし合える学習環境を整える。
- ・ 探究に必要な資料の精選
- ・ グループワーク・発表に適した学習スペース
- ・ 思考や学びを可視化する掲示・記録の工夫

(5) 学習規律の確立と積み上げ

探究・表現・フィードバックを円滑に進めるため、

- ① 対話や発表のルール
- ② 探究ノートやデジタルポートフォリオの活用方法
- ③ フィードバックの仕方・受け取り方

について、低・中・高・特別支援部会で共通理解を図り、学年段階に応じて系統的に積み上げていく。

① 対話や発表のルール（学年段階別）

学年段階	共通の視点	具体的な姿・ルール
低学年	安心して話す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話す人を見る・聞く姿勢をとる ・ 「～だと思えます」と自分の考えを言う ・ 友だちの話を最後まで聞く
中学年	考えをつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理由をつけて話す（「なぜなら～」） ・ 友だちの意見を受けて話す ・ 順番や役割を意識して発言する
高学年	目的を意識する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠をもとに整理して話す ・ 話し合いの目的に沿って発言する

		<ul style="list-style-type: none"> ・役割（問い手・要約係など）を意識して対話を進める
特別支援	参加を保障する	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード・指差し・短い言葉など多様な表現を認める ・発言方法を選択できる ・安心できる雰囲気大切に

② 探究ノート・デジタルポートフォリオの活用方法（学年段階別）

学年段階	共通の視点	活用の具体
低学年	書いて残す	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や短い言葉で考えを書く ・調べたことや気づきを記録する ・振り返りは○△×や一言で行う
中学年	整理して比べる	<ul style="list-style-type: none"> ・考えと理由を分けて書く ・表や図で情報を整理する ・友だちの考えと比べて振り返る
高学年	思考を更新する	<ul style="list-style-type: none"> ・問い→調査→考察→振り返りを一連で記録 ・デジタルポートフォリオに蓄積する ・過去の学びを見返し改善につなげる
特別支援	自分に合った形で残す	<ul style="list-style-type: none"> ・写真・音声・動画など多様な記録方法を用いる ・量や書式を調整する ・成長が実感できる記録を重視する

③ フィードバックの仕方・受け取り方（学年段階別）

学年段階	共通の視点	フィードバックの姿
低学年	よさに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ・「よかったところ」を伝える ・簡単な感想や質問をする ・言われたことをうなずいて受け止める
中学年	次につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なよさや工夫を伝える ・「こうするともっとよくなる」と提案する ・もらった意見を次の活動に生かす
高学年	学びを改善する	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとに建設的に伝える ・相手の目的を意識した助言をする ・フィードバックを基に自分の考えを修正する
特別支援	励ましと選択	<ul style="list-style-type: none"> ・否定しない言葉で伝える ・短く具体的に伝える ・受け取る方法（聞く・見る等）を選べる

※参考文献・出典一覧

・文部科学省

小学校学習指導要領（平成29年告示） 小学校学習指導要領解説 総則編
 小学校学習指導要領解説 各教科編
 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（令和の日本型学校教育）
 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料（GIGAスクール構想）

・国立教育政策研究所

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

・中央教育審議会

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」
 （平成28年12月 答申）

9 研究の年間計画

月	日	内容	備考
4	2	現職教育推進委員会	令和8年度全体計画の骨子再検討
	3	現職教育全体会	救命救急法（1）
	6	現職教育全体会	令和8年度全体計画の提案・検討
	27	現職教育全体会	救命救急法（2）
5	25	校内自主研修会 研究授業（高学年） →職員対象公開授業の振り返りと検証	指導案の書き方研修 研究テーマに沿った授業公開 （事後の授業に活用できる手段を検証）
6	15	研究授業（低学年） →職員対象公開授業の振り返りと検証 校内研修（研究協議について）	研究テーマに沿った授業公開 （事後の授業に活用できる手段を検証） 研究協議会について検証
	18	特設授業検討会①	研究内容との適合性を確認・検討
	22	研究授業（中学年） →職員対象公開授業の振り返りと検証	研究テーマに沿った授業公開 （事後の授業に活用できる手段を検証）
	25	特設授業検討会②	研究内容との適合性を確認・検討
7	24	現職教育全体会（校内研修会）	外部講師招聘
	30	現職教育全体会	防災学習（不審者対応訓練）
		市教員研修会	自己研鑽を図り、情報を共有する
8	7	市教員研修会・市教員全体研修会	自己研鑽を図り、情報を共有する
9	29	学校訪問	研究テーマに沿った授業公開 （事後の授業に活用できる手段を検証）
10	26	現職教育全体会 研究授業（特別支援）	外部講師招聘 研究テーマに沿った授業公開

		→職員対象公開授業の振り返りと検証	(事後の授業に活用できる手段を検証)
11	30	研究授業(初任者) →職員対象公開授業の振り返りと検証	研究テーマに沿った授業公開 (事後の授業に活用できる手段を検証)
12	23	現職教育全体会	本校校長による講演(特別支援教育)
1	12	情報交換会 校内自主研修会	個別に参加した研修の報告 文章表記の所見文の書き方研修
2	12	現職推進委員会	研究のまとめ・次年度にむけて
3	8	現職教育全体会	研究のまとめ・次年度にむけて